

リカードウが定式化した剰余価値に関する3つの法則

(第一部第五編第15章第1節、③、p890～896)

労働日の大きさ(労働時間)および労働強度が不変で労働の生産力が可変である場合には、

- ①同じ労働量(時間)は、労働の生産力が変化して、生産物総量や商品の価格が変動しても、つねに同じ価値生産物で表される。つまり同じ労働は同じ価値を生産する＝労働価値学説。
- ②労働力の価値(労賃)と剰余価値とは、互いに反対方向に変動する。
- ③剰余価値の増減は、労働力の価値(労賃)の増減の結果である。